

—文化は資本だ—創造経済と社会創造

- 開催日 2015年3月8日(日)
- 会場 大阪ビジネスパーク 松下IMPホール
(大阪府大阪市中央区城見 1-3-7)

(19:20~19:30)

閉会挨拶

加藤種男(公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事)

長時間ご参加いただきまして、本当にありがとうございました。この会議開催にあたって、企業メセナ協議会がこれまで考えてきたことを相当伝えることができたのではないかと思います。

我々がずっと考えてきたゴールは何かというと、市民一人ひとりが創造的になっていくことです。一昨日、「PARASOPHIA」で蔡さんが子ども向けのワークショップをやられていて、皆がとても喜んで参加していましたが、彼らが将来アーティストになるかという、恐らく、一人もならない。そんなことは必要ない。普通のサラリーマンになるかもしれないし、何か別の専門的な仕事に就くかもしれないけれども、彼ら一人ひとりが創造的であるかどうかということは、人生を送るうえで大きな違いだろうと思います。

一人ひとりが創造的になるという目標を実現するために、我々は文化に集中的な社会的投資をしていくべきだと言ってきました。しかし、その理屈が我々にとって必ずしも明確でなかった。今回の会議で、創造経済という考え方を非常に明快に言っていただいて、大変励まされたと思います。

さらに、そうした投資を進めて実のあるものにしていくためには、いろいろなパートナーが必要で、企業だけでやれるわけでもないし、もちろん、国や自治体だけでやれるわけではない。そうしたパートナーと一緒にどうネットワークを組んでいくかということが、非常に重要なわけです。そのネットワークの組み方も、地域間ネットワークに始まって、さらには国境を越えた世界ネットワークというものが重要だということが今回の会議で示されたと思います。

蔡さんから、アーティストというものの存在は非常に弱いのだと定義がありました。目的はそれぞれ全く違う人たちの表現の多様性というものを保障し、配慮しながら、すべての人々が創造的であるという状態を、どうやったら保てるのか。これはまだまだ難しい課題が残ったと思いますが、それに向かって進んでいくことができるのではないかと。具体的なフェスティバルのようなプロジェクトを、これから企業メセナ協議会をつくっていくつもりだし、集中的投資を進めるために財団の設立やファンドづくりを皆様をお願いしていきたいと思っています。

今回の会議を準備するプロセスで、我々は世界の方々を招くので、なるべく規模の大きな会議をやったらよいのではないかと考えてきましたが、今回やってみて、その点だけは深く反省しました。大きな会議が必要なのではなく、小さな会議をむしろ積み重ねる中から具体的なプロジェクトを一つひとつ発見していく必要があるのではないかと。2020年までに我々は、企業をパートナーとして100のフェスティバルをやりたいと思っています。それによって、オリンピック文化プログラムを20万やると言っているうちの3分の1、つまり7万件を企業セクターで達成できるのではないかと。それを目指すためには、これからも地道に、こうしたネットワークの実を上げるための会議を継続していき

たいと思います。

いずれにせよ、この会議が成功できたのは、遠く海外からおいでいただいた出演者もちろんですし、多方面から大変なご支援をいただき、さらにはご来場の皆様にも議論に参加していただき、実りのある会議ができました。本当にありがとうございました。